

研 修 報 告

報告日

令和4年4月11日

会 派 名	社会クラブ・柏崎のみらい連合
報告者氏名	佐藤 正典
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	会派 社会クラブ・柏崎のみらい連合 政策研修会
日 時	令和4年3月28日(月) 14時00分～16時30分
場 所 (会 場)	柏崎市文化会館アルフォーレ 中会議室
調査項目等	「SDG s を活かしたまちづくり」 講師 新潟産業大学 ■■ ■■ 先生
概 要	<p>研修目的 「人口減少時代におけるまちづくりの研究を行い、政策立案の向上により市政 の発展に尽くすため」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域通貨ゲーム体験を通じて、経済のグローバル化と地域経済の実際を学ぶ ・ SDG s をまちづくりに活かす様々なアイデアを学ぶ <div style="text-align: center;">   </div>
所 感 等	・参加議員の所感文については、別添のとおり

会派 社会クラブ・柏崎のみらい連合 3/28 研修所感

【笠原 晴彦】

地域通貨ゲームを体験し、ちょっとした駆け引きがきっかけで、自分の店だけでいいのか地域を守るのか、考え方の違いで大きくその地域を変えることになる。

地域通貨が入ることによって、全体が守られ同時に売り上げにも影響する。地域のコミュニケーションが強いと地元資産が増える。なんとなくわかっていたつもりが実際にゲームで経験すると実感がわいた。囚人のジレンマはだれもが思うし経験してきていることであると思うが、自分でもいろいろな場面で悪い対応になったことを反省した。

個人的合理行動と社会的合理行動を一致させることが重要であり、柏崎市として経済を回すには、行政の力、役割は大きい。次回の研修にも期待したい。

【飯塚 寿之】

1. 地域通貨ゲームから地元商業の持続性について考える

(1) 我々の消費行動が、地域外へどんどん通貨が流出していることはわかった。

結果として自分の所得も低下するのである。

(2) 地域通貨の導入を柏崎市は積極的に財政的、制度的に支援すべきと考える。

(3) 地域通貨ゲームを広範に経験していただきたい。

(4) 個人合理性と社会合理性の整合について学ぶ。自分のことしか考えない市民がたくさん存在していると町は衰退する。

2. 今後の課題

本当に大事なことって何？である。市民の心に共感できる経済政策ってどんな仕組みなのだろう？自分たちでコントロールできないものは仕方ないけど、自分たちでコントロールできるものがあるはずだ。新型コロナウイルス感染症拡大、ウイズコロナの時代だからこそ、地域内経済循環を真剣に考える時ではないのか。

地域にないものはない。しかし地域で生産し、地域で加工し、地域でできることは地域でやる、そのための事業構想と地元事業者への行政体制について研究すべきである。自然環境を含め、地域資源の活用、あらたな公共づくり・コミュニティビジネスの可能性もその一つであろう。

次回のセミナーのテーマとしたい。

【秋間 一英】

コロナ禍になる前から通信販売が多くなってきていたが、コロナ禍に於いてますます店舗先や地元商店での購入が減り、ネット購入が増えてきていて、通貨が市外、県外、国外へと流れ出している。そうした通貨の流れについて、4パターンのゲームを体験しながら感じた。

地域通貨を流通させるにはかなりの投資が必要だが、成功している地域もある。行政や地域商店街にやる気があるかないかだと考える。

当市の市長は「危機感を持って対応」と発言し、地域エネルギー会社を立ち上げたが、おりしも報道で地域エネルギー会社の倒産件数が過去最高と発表された。視野を遠くに持っていくことも大切だが、冷え切った足元を温めるために一方通行のGoto券などより地域通貨を考える必要もあるのかもしれないと感じた。

地域通貨の成功例を調べると真っ先に出てくるのが『さるぼぼコイン』（岐阜県高山市）と『アクアコイン』（千葉県木更津市）だった。今後の研究、視察先に候補に検討していきたい。

【星野 幸彦】

インターネット社会において通信販売や大手ショッピングモールなどにより、全国的にも地域での消費行動が弱まり、地域経済に影響している。

今回、『地域通貨ゲーム』を行い、地域経済が衰退する要因を理解する事ができた。所謂、お互い協力する方が協力しないよりも良い結果になることが分かっている。でも、協力しない者が利益を得る状況では互いに協力しなくなるという『囚人のジレンマ』である。

しかし地域経済において地域通貨が流通すると結果は一変し、地域消費が盛んになり、地域全体も豊かになる事が理解できた。すばらしい夢の様なシステムであるが、一部地域で成功例はあるものの課題は地域全体規模で一丸となった取り組みが必須であり、なかなか難しいとの事であった。

柏崎市でも実現できたら良いと感じるところであり、地域通貨について多くの市民に理解してもらいたいと感じた。

【佐藤 正典】

新潟産業大学が主体となって取り組んでいる地域通貨「風輪通貨」の仕組みと効果について、講師の説明を元に、実際に疑似体験ゲームを行った。この地域通貨を使った“疑似的な商い取り引き”により、まさに私たちが直面している経済のグローバル化と、地方が置かれている厳しい現状を実感することとなった。

地域経済が疲弊していき、地元消費（地元購買率）が縮小していく流れは、残念ながら有効に止める術はないと理解せざるを得ない一方で、しかしそうした現実の中においても、講師の言葉を借りれば、「短期的に自分だけが利益を求めると、社会全体がダメになる」ということも、忘れてはならない教訓である。

講師が教示された、「個人利得の追求が格差拡大と地域社会衰退となる」という負の構造を脱却し、個人的な利得だけでなく、地域や社会全体を持続可能なものとしていくためには、自分の事だけを考えない倫理観の醸成が必要であるということ、本件研修で学ぶことができた。